



たのび

小6年

祐介

即を教

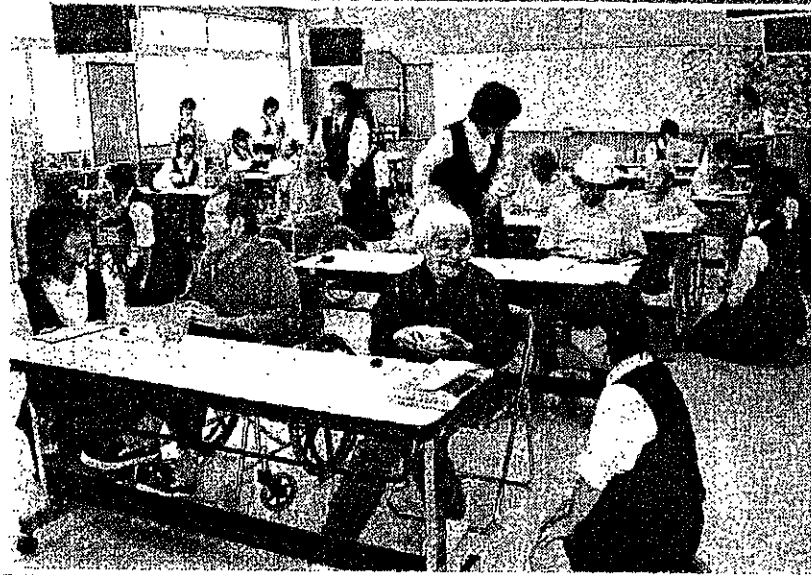
六 春 え 花 夏 い 秋 色  
2002 9.21 山陽  
た茶 かし の

冬には、  
服を着ずに、さむ  
さむしく立っ  
る。  
さむさむしく立っ  
て季節をほかに教

# 校内案内、抹茶で接待

## 倉敷中央高 文化祭 お年寄りを招待

倉敷中央高（倉敷市西二十日、「ウェルフェアデ  
富井」は文化祭初日の二日）（福祉の目）として



抹茶の接待を受けるお年寄り

老人ホームで  
マッサージ奉仕  
市鍼灸師会

△琴浦園（日井一之施設  
長）を訪れ、はりやマッ  
サージを無料で行い、お  
年寄り三十一人に響け

「財源をどう確保する」と、是が非でも、やり遂げな動きはない。

数人で、市民からの要望 悪化した市財政について持ち越された。

に「おいしいなあ」「あ  
りがとう」と感謝して  
いた。  
案内した福祉科二年  
の経験を今後にかかし  
武政薫さん（左）は「福  
祉の勉強にもなり、こ  
いた。

# 墨痕鮮やか120点 市立美術館で書道協会展

倉敷、総社市、船穂町 作品を集めた「倉敷書  
などの書家、愛好家の「道協会書道展」（山陽  
新聞社後援）が、倉敷市  
中央の市立美術館で開  
かれていて、二十三日  
まで。



和歌や漢詩など、思  
い思いの題材で百二十  
人が一点ずつ新作を出  
品。訪れた人は、墨痕  
鮮やかな作品に足を止  
め、じっくりと見入っ  
ていた。  
倉敷市玉島上成、主婦  
角谷愛子さん（左）は「書  
いた人の精進が感じられ  
力作が並ぶ書道展

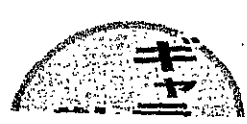
# 斤の人氣者

族の健康を祈ることが日  
課。これまで大きな病氣も  
せず、気候の穏やかだった  
二カ月ほど前までは、近所  
のスーパーに買い物に行っ  
たり、庭の草取りに励んで  
いたが、話し好きの明る  
い性格、一斤の人氣者



玄孫の真胡ちゃんを抱く近藤さん（左）

- ◆天沼徹 日まで、倉ラフト& (422) 食器を中、点。
- ◆福地 市東町の書 (422) 純銀粘土、アクセラ、◆天神 まで、倉敷店、(4) 5階





福祉実習ではお世話になりました

# 文化祭にお年寄り招待

倉敷市西富井、県立倉敷中央高(中根公郎校長、千六十二人)は十九日、文化祭初日にお年寄りを招待し、お茶の接待やプレゼントを贈って交流を深めた。

招かれたのは、福祉科の生徒が実習で訪れた倉敷市内の老人施設などのお年寄り六十一人。生徒たちが車いすを押して校内を案内した後、吹

高中央倉敷

## 笑顔満開

奏楽やバトン部のスチージ、絵画、書道作品を見てもらった。さらに家政科の生徒が造花と方メのキーホルダーを贈り、浴衣姿の茶道部員たちがお茶を振る舞った。招待された井上泉さん(82)は「若い方のエネルギーをもらった気がします」と話し、車いすを押して案内した三年中原明日香さん(18)は「リラックスしてもらえたらうれしい」と笑顔を見せていた。

車いす押し校内案内 お茶で接待

H.15.9.20 山陽

振る舞われたお茶を手に、女生徒と交流するお年寄り(県立倉敷中央高で)

# 大山福祉作文コンクール

## 作品紹介

③

私が初めてボランティアを知ったのは、小学校六年生の時にあった。「ボランティア体験」というものでした。友達とバラバラになり何人かのグループに分かれて、車イスに乗っている方と町を歩いて触れ合うというものでした。

小学生の参加者は私達四人しかいなくて、周りは高校生や大人の方ばかりでした。その時は誰に何を、何を話せばよいのかわからず、車イスの方や大人の方の後ろをずっと歩くだけでした。

その時、一緒に歩いていて高校生の男の方が、私に今通っている高校の福祉科の先輩だったのです。その先輩は福祉科でどんなことを学んでいる、どんな実習をしているのかを車イスの方に話していました。その話を聞いて私は先輩の話にとても興味が湧きました。

前々から福祉について知りたいと思っていたので、先輩の話は、私が福祉の世界を知る第一歩となりました。私は小学六年生で、自分が進学したい高校を決めることができません。

中学生になりボランティアをする幅がぐんぐんと広がりました。一年生のころから学校で呼びかけて行う、施設へのボランティアへ行くとようになり、最初の呼びかけには約五十人の生徒が集まりましたが、次は半分、その次はまた半分に、どんどん人は減っていきま

### 「奉仕活動を通じて感じたこと」

高校生の部 岡山県立倉敷中央高校2年 高原 千裕さん

ていきました。

私から見ると、本心にボランティアをしようとする意志がないように見えた人もいたので、それも当然に感じました。そして、内心ホッとしました。最終的に五人が主となりました。

ボランティア先の施設では掃除をしたり、自分たちで考えてきたレクリエーションをやりました。私はこのボランティアに参加し続けたことで自分は積極的で人前で話したり歌ったりすることができ

るんだと知るようになった。このボランティアを機に、委員会の委員長に立候補したり、文化祭の実行員や選挙管理委員の他にもたぐい自分ができることをしていきま

二年生の冬、部活の休みも多く時間をあてあまし、友達関係がうまくいかず落ち込んでいた時期がありました。その時母が私に「そんなに落ち込んで毎日がおもしろくないんだったら、何か自分のた

ていきました。来られた方にお茶を出したり、利用者さんとお話をしたり、時々レクリエーションの中に介助者として参加させてもらいました。参加することによって介助する側の大変さがよくわかりました。

また、利用者さんとコミュニケーションも増えました。私にとって施設はとても安心できる場所になりました。それは私が一番素直になれる時間でもありました。周

めには友達がいないので、変な目や、嫌なことも忘れられるんじゃないかな。ボランティアとかしてみればいいじゃない」と言いました。

最初はとても不安だらけでした。全部一人でやらなくては、とか何かプレッシャーみたいなものがありました。しかし、手続を全て一人でして施設に行くことが、そんなプレッシャーはぐんぐんに飛んでいきました。

介護士さんの方でもとても親切で、無理なくボランティアをする

そして、福祉科に入學し、いろいろなことを学び、施設にボランティアに行くこと、前とは違い、場合合々でできることが増えてきた。あの日はお茶を出すと言、「おはようございます。ボランティアで来た高原です」と言っていると、無理なくボランティアをする

いい笑顔ねえ」と言ってお茶を出したり、利用者さんとお話をしたり、時々レクリエーションの中に介助者として参加させてもらいました。参加することによって介助する側の大変さがよくわかりました。

一人の利用者さんの一言が私をずっと笑顔にさせ、そして私の笑顔が他の利用者さんを見て笑ってくれる。その快さはなかなか味わえるものではありません。

私がボランティアを通じて感じたこと。それは、お互いの快さです。私と利用者さんとの間で心が通い合う時の安心感とうれしさは何にも勝るといえることです。また自分自身が見つけ出すという効果もありました。自分自身が見るといことは自分の知らないところを知ることで、驚くというこ

私は、これからはもっとボランティアに行きます。学校で学んだことを生かせる場所でもあり、私が介護士になるためにも必要なこと、ボランティアに行くことで得られるからです。私は、利用者さんとの心を通い合える笑顔がけない介護士になれるよう、今日も勉強を続けていきます。

いい笑顔ねえ」と言ってお茶を出したり、利用者さんとお話をしたり、時々レクリエーションの中に介助者として参加させてもらいました。参加することによって介助する側の大変さがよくわかりました。

1115 読売 11/14 (金) 地方版

ソフトボール  
協会30周年記念ソフトボール  
大会30周年記念ソフトボール  
大会30周年記念ソフトボール

〒504-1575  
山口県山口市  
岩国